

森林総合研究所多摩森林科学園主催 第5回森林・林業教育セミナー 開催報告 (2010年8月11日～12日、静岡県立森林公園森の家にて)

森林総合研究所多摩森林科学園では、森林に関する研究の成果を広く教育現場に普及することを目的に、専門高校で森林・林業の専門教育に携わっている先生方を対象とした森林・林業教育セミナーを開催しています。本セミナーは、2006年に第1回をつくばで開催して以来、2007年に第2回を東京都八王子市で、2008年に第3回を愛知県で、2009年には第4回を長野県で、全国高等学校森林・林業教育研究協議会との連携により開催しています。

第5回の今年も、静岡県立天竜林業高等学校森林科学科のご協力のもと、静岡県立森林公園森の家を会場として開催しました。セミナーには、北海道、千葉、長野、静岡から森林関連科目を担当されている5名の先生が参加されました。研修テーマは、昨年に引き続き「森林・林業教育の新たな可能性」で、研究内容には高性能林業機械と森林GISを取り上げ、次の内容で実施しました。



テーマ:森林・林業教育の新たな可能性

内容:

国有林野および天竜森林管理署について

林野庁関東森林管理局天竜森林管理署長 河岡 裕

森林総合研究所の紹介

森林総合研究所多摩森林科学園園長 赤間 亮夫

研修Ⅰ 高等学校演習林における森林管理とGISの可能性

森林総合研究所関西支所主任研究員 田中 邦宏

研修Ⅱ 高性能林業機械

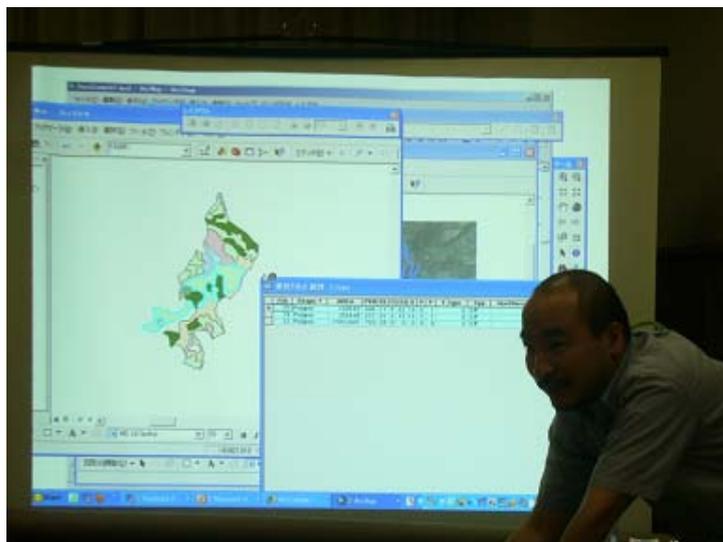
森林総合研究所林業工学研究領域チーム長 広部 伸二

総合討論



林野庁関東森林管理局天竜森林管理署の河岡署長からは、専門高校の卒業生の進路先の1つである林野庁の業務に関して、2万3千haを管理して8つの森林事務所を所管している天竜森林管理署事務所の業務について、資料を含めて具体的なお説明を頂きました。

研修Ⅰでは、昨年に引き続き森林 GIS について、高校演習林で何が出来るかを、高校演習林の事例データを実際に見て操作しながら解説されました。新学習指導要領では、科目「森林経営」に新たに森林経営情報の活用の項が加わり、科目「農業情報処理」に森林情報の活用が導入されるなど、コンピュータの活用を図ることがうたわれていることから、森林 GIS は新しい森林教育を志向した教材であると言えます。2日目の早朝には、GPS とカシミール（フリーのソフト）を利用して、デジカメの写真を地図上に取り入れる実習も行いました。学校教材として導入できる安価な機械を利用したもので、大変好評でした。



研修Ⅰ 森林 GIS 研修

研修Ⅱでは、安いコストで普通の並材を大量に切り出すためには必要不可欠な大型林業機械について、写真を含めながら種類や機能について丁寧に解説されました。また、木を数分で切り倒すことができる高性能林業機械でも、最も大切なことは安全で、そのため基礎的な伐倒の知識や技術が不可欠であることを強調されました。また、これまでに起きている事故としては、作業時間の関係で伐採した木を搬出するフォワーダで無理をして、過積載や速度超過によるものが多いとの指摘もありました。林道、作業道の開設や、大型機械を利用した伐出が期待される中で、専門高校の授業でプロセッサやフォワーダなどの大型林業機械を取り上げることは、今後ますます必要になってくると思われます。その中でも、林業の科目で学ぶ基礎的な知識と技術が、安全教育上からも必要不可欠であると再確認できた研修となりました。また講師からは、大型林業機械の導入が進んでいない地域においても高校の授業で取り上げられるように、機械の写真および映像も提供され、大変好評でした。

最後に、質疑応答を含めて、研究所職員と専門高校の先生方との意見交換を行いました。次年度以降もセミナーの開催を含めた連携活動を継続することを検討しつつ、今回のセミナーを閉会しました。



研修Ⅱ 高性能林業機械



(教材 DVD より) プロセッサ

*日本で最も多く導入されている大型林業機械。木をつかんで枝払いと玉切りをする。